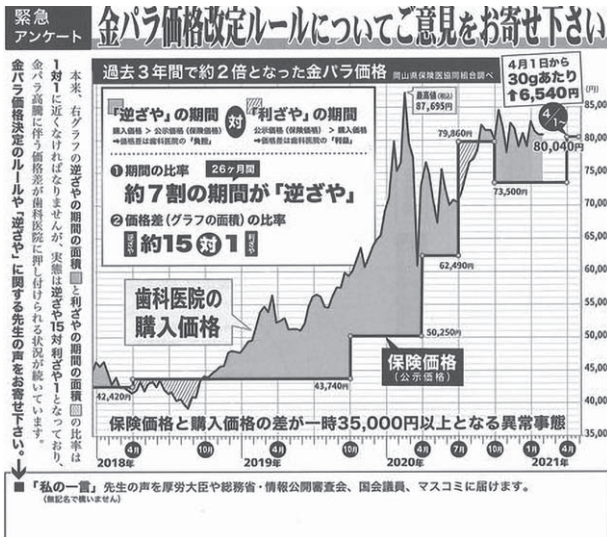


# 「現場の声が届かない」金パラ逆ザヤで切実な声

## 緊急会員アンケートより

茨城県保険医協会が7月に歯科会員を対象に実施した金パラ価格改定についての意見募集には、「治療すれば治療するほど経営が苦しくなる」「(金パラを使用すると)高点数による指導にかかってしまう」など、切実な声が寄せられた。

協会では8月から会員に呼び掛けている「金パラ逆ザヤの抜本的な解消を求める要請署名」とともに、これらの声を関係大臣と茨城県関係の国会議員に提出し、逆ザヤの抜本的な解消を求めて行く。



○保険報酬では、令和3年4月から2,668円/gとのことですが、30g金パラだと80,040円に相当します。ところが、6月15日の時点でのアマガイ歯科商店の30g金パラ購入価格は96,380円(税抜)となり、その差額は30gで16,000円の赤字です。又、歯科技工所での金属代(12%金パラ)は101,400円(税抜)で計算されています。その差、約21,000円(税抜)の赤字となっています。本当に4月の時点の金パラは税抜きで、30g80,400円(2,668円/g)だったのでしょ

## 引き続き、「金パラ“逆ザヤ”の抜本的な解消を求める要請署名」にご協力を

10月には随時改定Iが実施されるが、改定価格が2,951円(30g88,530円)では実態に全く見合わない「逆ザヤ」前提の改定となっている。現行の「随時改定」の問題点は、①価格の参照時期から改定実施までに大きなタイムラグがある、②価格の変動率が一定未満(Iは5%、IIは15%)では改定が実施されず、価格乖離の長期化が起こる、③随時改定は金パラの実勢価格に基づかず、素材(金、銀、パラジウム)となる貴金属価格の変動に基づいた机上の試算価格にすぎない。そもそも、金パラの市場実勢価格を定期的に把握する仕組みが存在せず、実態を検証するデータもない、④2年に1度の金パラの市場実勢価格調査は非公開であり不透明である—などがある。

### 【緊急会員アンケートに寄せられた声】(抜粋)

- 治療すれば治療するほど、経営が苦しくなります。シルバーに代替している方もいらっしゃるかもしれませんが、患者様を裏切るようなことを私にはできません。現場の声を聞いていただきたいです。ぜひとも見直しをお願いします。
- 真面目に金属使用を行っている。12%金パラの代金が大変、可処分所得が減っている。
- もう何を言っても無駄。現場の声は届かないような気がします。現状がどうであろうが、どれだけ耐えながら診療をしようとも、我々には我慢を強いるだけで、迅速な改善はないですね。まるで、損するのがいやなら、金パラは使わない!とされている気がします。
- (協会のアンケート用紙では)2021年2月以降の表は出ていませんが、3月は税込96,140円(3/29)、5月17日では税込103,400円です。大幅な逆ザヤなのに据え置きだなんてありえません。3ヶ月毎の見直しは、どういった計算をしているのか?都合の良い数値をとっているのか疑いたくなります。政府が一括購入してその金額での点数であれば良いのでは?聞くとこでは他院では銀合金で冠を作り、すぐに真黒になっている患者さんを見受けます。
- メタルの逆ザヤ問題の解決はとても厳しいと思います。そのためCAD/CAMの適用範囲を広げていってください。
- クラウン・ブリッジは「逆ザヤ」で不採算に陥っている。また、高点数による「指導」にもかかってしまい、二重苦となっているのが、現状である。

### 一、次期改定に向けて、金パラ「逆ザヤ」の抜本的な解消を求めます

私の一言

住所:

医療機関名:

氏名:

厚労省も全国の歯科医療関係者の声に押され、2022年度診療報酬改定の課題として認識し、中医協のテーマにしている。

現在、保険医協会・保団連では、会員に「次回改定に向けて、金パラ“逆ザヤ”の抜本的な解消を求める要請署名」への協力を呼び掛けている。署名用紙は本紙8月15日付に同封したほか、協会のホームページからもダウンロード可能。署名欄に医院名のゴム印を押し、協会にFAX返信を。ぜひ、ご協力をお願いしたい。

返信先FAX 029-822-1341

第1次締切日 9月30日